

# Europe Indicators

発表日: 2021年2月12日(金)

## 欧州経済指標コメント: 10-12月期英国GDP速報

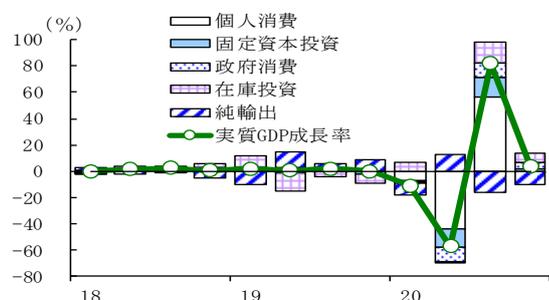
～自粛慣れ・自粛疲れとブレグジット不安が成長率の下支えに～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

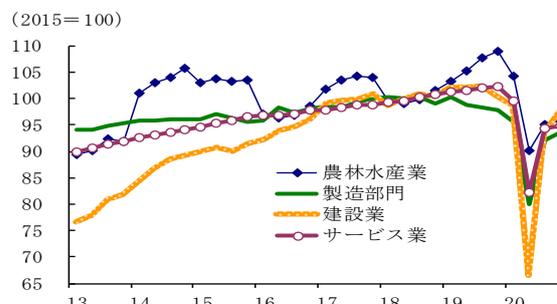
首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 昨年10-12月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比+1.0%、同年率+4.0%と、2四半期連続のプラス成長を記録した。昨年秋の感染第二波による都市封鎖の再開を受け、マイナス成長への再転落も不安視されたが、個人消費を除く主要需要項目が増勢を維持した。コロナ危機発生以前の2019年10-12月期と比較すると、昨年4-6月期の▲21.4%の落ち込みをボトムに、過去2四半期の持ち直しで10-12月期は▲7.8%まで持ち直した。だが、年間の成長率は▲9.9%と、二度の世界大戦やリーマンショック時を上回り、1709年の大寒波時以来の落ち込みを記録した。
- 10-12月期の需要項目別動向は、個人消費(同▲0.2%)が小幅落ち込んだ一方、政府消費(同+6.4%)、企業投資(同+1.3%)、公共投資(同+5.7%)、住宅投資(同+1.5%)が増加した。英国とEUとの将来関係協議を巡る不透明感から、年末の移行期間終了前の在庫積み増しの動きから、在庫投資が成長率を押し上げた。輸出が微増にとどまるなか、輸入が大きく増加したことから、純輸出は成長率の押し下げ。第一波に比べて都市封鎖による経済活動停止の影響が軽微なものにとどまったことに加え、ブレグジット関連の駆け込みが成長率を押し上げた。変異種の感染拡大を受け、英国では年明けに三度目の都市封鎖を開始。1-3月期はマイナス成長に転落する可能性が高いが、ワクチン接種が急ピッチに進んでおり、4-6月期のプラス成長復帰を見込む。

■英国: 実質GDP成長率 (前期比年率、%)



■英国: 業種別GDP



出所: 英統計局

出所: 英統計局

■英国GDP (前期比年率&lt; % &gt;、括弧内は寄与度&lt; %ポイント &gt;)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
19/1-3月期	5.4	2.2	(11.9)	▲ 0.1	5.6	8.6	(▲ 2.2)	(▲ 9.6)	▲ 4.7	28.4
19/4-6月期	2.3	0.6	(▲ 11.6)	2.0	9.7	▲ 4.2	(▲ 19.0)	(12.1)	▲ 3.0	▲ 31.3
19/7-9月期	4.7	2.0	(▲ 2.5)	0.7	▲ 3.4	5.3	(▲ 5.2)	(4.5)	22.9	6.2
19/10-12月期	0.8	0.1	(▲ 9.1)	▲ 1.0	▲ 0.0	▲ 6.3	(▲ 1.7)	(9.1)	16.2	▲ 11.9
20/1-3月期	▲ 6.3	▲ 11.0	(▲ 2.5)	▲ 10.8	▲ 7.2	▲ 4.8	(20.3)	(▲ 8.5)	▲ 44.7	▲ 26.5
20/4-6月期	▲ 43.9	▲ 57.0	(▲ 69.5)	▲ 61.3	▲ 47.2	▲ 60.0	(98.9)	(12.5)	▲ 35.6	▲ 59.7
20/4-6月期	63.7	81.9	(97.8)	99.8	62.2	109.3	(▲ 173.5)	(▲ 15.9)	▲ 4.3	65.0
20/10-12月期	6.5	4.0	(13.7)	▲ 0.6	28.3	8.6	(▲ 22.6)	(▲ 9.7)	0.4	40.9

出所: 英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。